

院内感染予防の実際

ースタンダードプリコーションを如何に実践するか？ー

東 奈緒

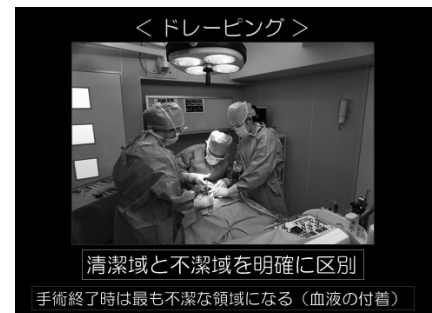
野阪口腔外科クリニック



インプラント治療は、補綴治療であるにもかかわらず、インプラント体埋入などの外科的な処置が必要となります。したがって、歯科衛生士は、外科的な知識を求められるだけでなく、手術における院内感染予防の対策と実践をする必要があります。つまり、ウィルス性肝炎、エイズ、梅毒あるいは未知の感染症などから、患者や医療従事者を守るという重要な役割を歯科衛生士は担っていると考えられます。

スタンダードプリコーションは、院内感染の予防策として提唱されていますが、医療従事者の共通認識、実施能力およびコスト面で、徹底させるのが難しいという側面もあります。当院は、インプラント関連手術を中心に臨床を行っておりますが、スタンダードプリコーションの実施に関して様々な問題点も存在すると考えております。

本講演では、当院で行っているスタンダードプリコーションの現状を供覧し、院内感染予防における歯科衛生士の役割について考察したいと思います。



略 歴

2001年 兵庫県立総合衛生学院 卒業
中川矯正歯科 勤務
2004年 おおいし歯科クリニック 勤務
2005年 野阪口腔外科クリニック 勤務
現在に至る
2018年 SAFE 会員

memo